



平成27・28年度 あきる野市教育委員会 小中一貫教育研究推進校

心を磨き 環境を整え 学力の向上を図る

～豊かな心を育み、人とのかかわりを大切にできる児童・生徒の育成を中心に～



 あきる野市立五日市中学校

 あきる野市立五日市小学校

◎はじめに

あきる野市立五日市中学校とあきる野市立五日市小学校は、平成27年度よりあきる野市教育委員会研究推進校として、研究主題を「心を磨き 環境を整え 学力の向上を図る ～豊かな心を育み、人とのかかわりを大切にできる児童・生徒の育成を中心に～」と設定し、2年間、共に研究に取り組んで参りました。道徳分科会と算数・数学分科会の2分科会が、豊かな心の育成と算数・数学の基礎学力の向上を図るとともに、9年間を見通した各教科等の指導計画を参考にしながら、様々な小中学生の交流を通して小学校から中学校への生活環境や学習環境へのスムーズな移行ができる機会を設けて参りました。具体的に、心を磨くことでは、道徳を中心に、自己肯定感の高い児童・生徒の育成を目指し、小学校1年生から中学校3年生まで、「道徳の授業はいつかいち」を合言葉に取り組んで参りました。環境を整える部分では、児童・生徒が主役となり、「言いたい、伝えたい、考えたい」授業を展開することを目指しました。更には3つの約束として、小中合同で「あいさつ・返事・時間を守ること」を大切に参りました。また、学力の向上では、算数・数学を中心に、児童・生徒のつまづきを解消し、基礎学力の向上を目指す授業を展開して参りました。

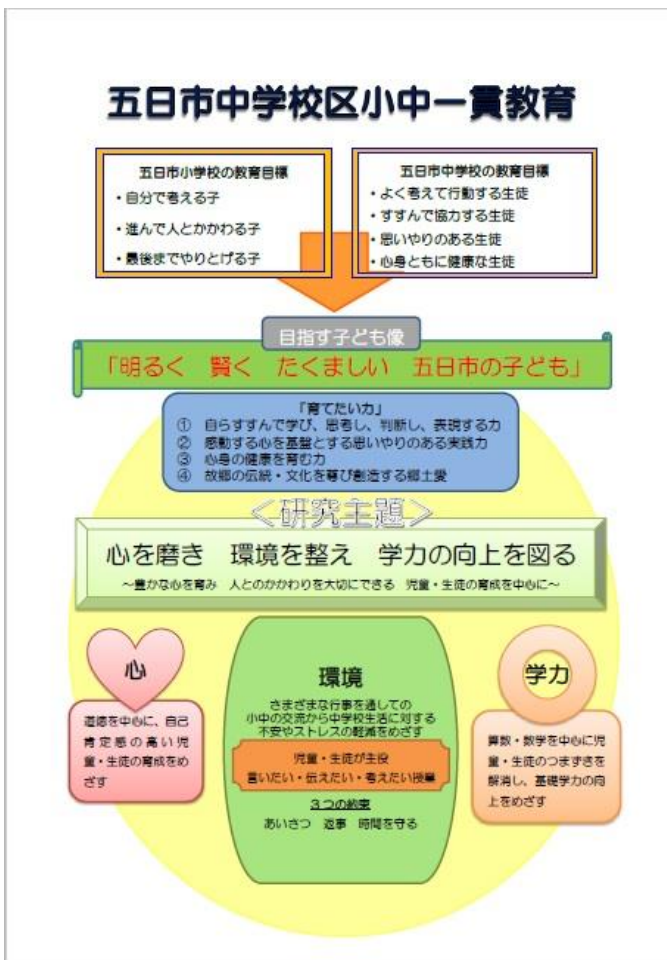
この2年間の研究の目的は、9年間で豊かな人間性が生まれ、学力が少しでも向上することであり、今後も今まで以上に2校で手を取り合い、より成果が上がるよう研究に取り組んで参ります。

本研究にあたり、2年間にわたり、御指導を賜りました明星大学 講師 岩木晃範先生、元東京都算数教育研究会 会長 山崎憲先生、東久留米市立南町小学校 副校長 向後克道先生、あきる野市教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。

あきる野市立五日市中学校長 曾我 有二

あきる野市立五日市小学校長 中島 靖二

◎2年間の取組



五日市中学校区では、「明るく 賢く たくましい 五日市の子ども」を「目指す子ども像」に掲げ、小・中学校の連携した取組を行ってきました。2年間の研究指定を受け、「目指す子ども像」に迫り、育てたい力を身に付けさせるためにはどのような取組を行うべきか考えたところ、道徳の授業や日々の生活の中で子供たちが自己肯定感を高める必要があると考え、研究テーマとして「道徳教育の充実」を設定しました。

また、本中学校区では「学力向上」が大きな課題です。各教科について考えると、どの教科でも「算数」の基礎的な学力が必要であることから、「算数・数学科」に特化して研究を進めることにしました。

そして、小中一貫教育を行う意義の1つとして、中学校入学時の不安やストレスの軽減、中学生の自覚の醸成が挙げられます。そのために小中合同の様々な行事を企画し、小・中学生が交流する機会の充実を目指しました。

○ 心を磨く …… 道徳教育の充実

<内容の分析>

道徳の研究を始めるにあたり、小・中学校全児童・生徒を対象に道徳の4つの内容項目に則ったアンケートを実施しました。その結果、内容項目Bの「主として人との関わりに関すること」〔思いやり、感謝〕〔礼儀〕〔友情、信頼〕〔相互理解、寛容〕に関する質問で否定的な回答が多く見られたことから、他者と関わる際に身に付けるべき道徳性を養い、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる授業をどのように行うかが課題として挙げられました。

また、明星大学の岩木晃範先生に基調講演をしていただいた際に、道徳の時間の特質について御指導をいただき、①「道徳的価値を主体的に自覚し、自己の生き方・在り方を考える時間」、②「『教える』より『共に考える』ことを大切に時間」、③「児童・生徒の心を揺り動かし、道徳的実践への意欲を高める時間」の3つを心がけて授業を行うべきであると学びました。

<重点内容の明確化>

以上の2点の課題を解決するために検討を行い、道徳授業のスタンダードを策定することにしました。それが、「道徳の授業は“いつかいち”」です。道徳の授業づくりを行う際に5つの視点を授業に取り入れることで、学習内容に対して主体的に取り組み、課題に対して自分の考えをもつ機会をつくり、他者の考えを理解する場を設定することを目指しました。

道徳の授業は「いつかいち」……こんな事を意識して授業に参加しよう！！

- ① **言ってみよう** 自分の意見を
- ② **伝えよう** 自分の気持ちを
- ③ **考えよう** みんなで
- ④ **活かそう** これからの生活に
- ⑤ 長所（よいところ）を **見つけよう、認めよう**



<授業実践>

「道徳の授業は“いつかいち”」を取り入れた授業づくりの実践として、全5回の研究授業（小学校3回、中学校2回）を行いました。研究授業を行う際には、事前の指導案検討で資料の読み込みやワークシートの内容確認、発問とそれに対する反応を想定するなど十分に検討し、様々な授業形態を取り入れたり、学級ごとに終末の形態を変えたりするという工夫を行いました。



○ 授業形態の工夫

- ・ 終盤における主人公のセリフを考え、学級で意見交換を行う場面を設定する。
- ・ 2つの立場に分かれてディベートを行い、その立場の心情を理解する機会を設ける。
- ・ 紙芝居形式で資料を提示することで、子供たちの資料に対する興味・関心を高める。
- ・ 物語と実生活を結びつけられるように、終末の場面で感情移入できる工夫をする。

事後の研究協議では付せんを「良い点」、「改善点」、「改善案」で色分けして気付いた点を書き出し、「使命感、熱意、感性」、「児童・生徒理解」、「統率力」、「指導技術」、「教材解釈・教材開発」、「『指導と評価の計画』の作成・改善」の授業力の6要素で分類することで、課題を焦点化しました。

○ 環境を整える …… 小学生と中学生の交流

小学校と中学校の生活環境や学習環境の違いによって感じる中学校生活に対する不安やストレスを軽減するために、小学生が中学校で体験活動を行うことで、中学生や中学校の教員と接する機会を数多く設けました。また、中学生も小学生との交流を通して自分自身の生活を振り返ったり、自分の成長を実感したりする良い機会となりました。

- あいさつ運動 … 各学期に3日間（児童会・生徒会を中心に）
- いじめをなくす合同の取組 … 「いじめをなくそう」子ども会議、ポスター掲示
- 中学校運動会（予行）ソーラン節見学 … 小学4年生
- 小中歌の交流 … 小学4、5、6年生&中学3年生
- 授業体験&部活動体験 … 小学6年生
- 特別支援学級の交流 … 合同調理会・音楽会（箏）や「劇と音楽の会」練習の見学
小学校展示会の見学 など



<児童・生徒の声>

中学生といっしょにやったあいさつ運動では、朝早く学校に行ってみんなのお手本になるように元気な声であいさつをしました。初めは、あいさつをしてくれない人もいたけれど、朝会で呼びかけ、もっと大きい声で言ったら、みんながあいさつをしてくれるようになりました。元気よく朝をむかえられてあいさつ運動をやってよかったと思いました。

（小学校児童会長）

中学生のソーラン節を見て、わたし達がおどったのは少しちがいました。みんなおどりが大きくて上手でした。「やっぱり中学生はすごいな」と思いました。わたしは五中に行ったら運動会でソーラン節を踊るのが楽しみです。

（小学4年生女子）

4年生の頃に見た、当時の中学3年生のソーラン節は、自分たちが運動会でおどったのよりも何倍も迫力があってびっくりしました。

また、小中合同あいさつ運動では、中学生は大きな声を出していて、小学生をうまくリードしてくれるのでうれしかったし、すごかったです。

中学生になった今、先輩の言うことをしっかり聞いたり学んだりして、後輩が入ってきたら優しくしてあげたいと思います。

（中学1年生男子）

小中合同であいさつ運動を行うことで、小学生のみなさんとの交流を深めることができます。

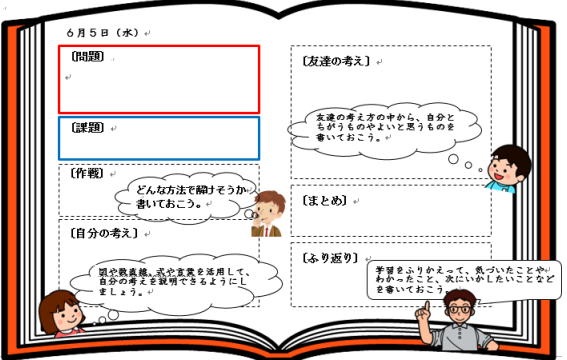
あいさつ運動を行っていて、役員からあいさつするだけでなく、自分からあいさつをしてくれる人が増えてきています。そして、あいさつ運動を行っていない時でも廊下などであいさつが聞こえ、先輩後輩の中でのコミュニケーションをとるキッカケとなっています。


（中学校生徒会長）

○ 学力の向上を図る …… 算数・数学科の取組

【小学校編】

学力の向上を図るために、小・中学校の教員間で小学校ではどのような学習環境、授業展開が必要か話し合い、①板書・ノートの統一、②話し合い活動の2つの視点で研究を進めてきました。そして小中一貫教育テーマ『心を磨き 環境を整え 学力の向上を図る』を受け、小学校算数科では以下のように指導しました。

<p>①板書・ノートの統一</p> <p>ノートの書き方</p> <p>○どんな学習をしたのかわかるようにノートを書こう！ ○それが読んでも分かるようにノートを作ろう！</p>  <p>【共通のノートの書き方例】</p>	<p>『心を磨き』 学習過程を意識して授業に参加ができる。</p> <p>『環境を整え』 学習内容を整理して、理解を深めることができる。</p> <p>『学力の向上を図る』 自分で考えることを意識し、理解を深めることができる。</p> <p>板書やノートを6年間統一することで、児童が安心して授業を受け、考えられる環境を作ります。</p>
--	---

<p>②話し合い活動を効果的に取り入れる</p> <p>算数の授業は「いつかいち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 意見をもとめ 自分で分かるところまで ② 伝え合おう 積極的に ③ 考えを広げ深めよう ④ 活かそう 別の場面でも ⑤ 挑戦しよう 新たな課題へ  <p>【理解を深める話し合いに】</p>	<p>『心を磨き』 誰とでも自分の考えたことを話すことができる。</p> <p>『環境を整え』 構築した考えを、友達にわかりやすく話すことができる。</p> <p>『学力の向上を図る』 友達の考えを自分の中に取り入れ、よりよい考え方をもちることができる。</p> <p>自分の考えを改めて深め関わり合うことで、互いに理解できる授業展開を行います。</p>
--	---

< 授業実践 >

 <p>板書を統一し、児童はノートに整理して考えを書くことができました。(2年)</p>	 <p>中学校の教員がT1になって授業を行いました。話し合いで理解が深まりました。(1年)</p>
---	---

【中学校編】

中学校の数学科では、研究を始めるにあたって、子供たちの苦手な部分を把握するためのアンケート・小テストを行った結果を踏まえて、授業展開の方法などの研究を行いました。

アンケート・小テストから見えた課題

- ・「割合」「比例」の分野に苦手意識をもっている生徒が多い。
- ・「小数と分数の混じった計算」、「累乗の入った四則混合の計算」の正答率が低い。
- ・計算の仕組みの理解不足、途中の計算過程を式に表すことができない。



課題を踏まえて、生徒が主体的に取り組む授業を展開するために、算数・数学科で研究する。

授業展開を研究し、研究授業を行い、有効な授業展開についてさらに研究を深めていく。



研究結果を資料としてまとめ、小・中学校で共有する。

研究授業を通じての良い点、改善点を明確にし、今後の算数・数学の授業に活かしていく。

<授業実践>

中学校での研究授業 1年 「資料の散らばりと代表値」で課題を踏まえて授業を展開した。

「体内時計選手権」を企画。1秒・10秒・30秒のタイムをストップウォッチを見ないで各秒になったら停止し、その正確さを記録しました。そして自らつくった記録を基にこれから学習する内容の資料を作りました。タイムを計るという単純な方法ですが、誰でも分かりやすく、楽しみながら資料作りができたことで、これから学ぶ内容に入るための興味を引く導入になりました。

「クラスの傾向を分析」する授業では、2つのクラスのどちらが正確に計れたかを比べるため、それぞれのデータを見て考え、現状のデータを見やすくすると良いことに気付き、その方法として「図をかく、表にする、グラフをかく」などの意見が生徒から出ました。そこで授業者は、班でどの方法で比べるかを決め、資料としてまとめ、どちらのクラスが正確なのか理由を考える課題を与えました。

グラフをかいたり、平均などの値をまとめたりするために、苦手意識の高い「小数の計算」が伴いましたが、生徒たちは班で協力しながら作業にあたることができました。

次の時間に完成した各班の資料の発表を行いました。「表で30秒を基準にして＋で表す」「棒グラフで表す」「折れ線グラフで表す」など様々な方法で資料をまとめ、それを基に説明をしていました。その中で、小学校で学んだ内容、表を使う、棒グラフを使うなどを利用して説明しようとする様子が見てとれました。



◎ 成果と課題

○ 心を磨く …… 道徳教育の充実

【成果】

道徳の授業づくりの際に、「道徳の授業は“いつかいち”」を意識しながら教材研究を重ねることで、子供たちが学習内容に対して主体的に取り組み、課題に対して自分の考えをもつ機会をつくり、他者の考えを理解する場を設定できるようになってきました。また、「道徳の授業は“いつかいち”」を教室に掲示して子供たちの目に入るようにすることで、子供たちも道徳の授業に臨む際に、意識して授業を受けられるような環境を整えることができました。そのことにより、授業の中で自分の考えを伝える姿が見られるようになりました。

【課題】

「道徳の時間」が平成30年度より小学校で、平成31年度より中学校で「特別の教科 道徳」となります。その際に大きな転換点となるのが「評価」を行うということです。今後は、道徳の評価方法なども含めて小中一貫して取り組むことができるように、現在使用している「道徳ノート」や「授業観察シート」を活用して小学校・中学校の教員の交流を深めていくことが課題です。今後、なお一層、自己肯定感の高い児童・生徒を育成する道徳教育を目指します。

○ 環境を整える …… 小学生と中学生の交流

【成果】

平成21・22年度の小中連携教育の研究以来、小学校・中学校の交流が様々な場面で行われてきました。子供たちのコメントからも、小学校・中学校が連携した行事や企画を数多く行うことで、小学校から中学校への移行がスムーズに行われていることがわかりました。そして、児童会・生徒会活動の交流を通して、多くの生徒にその試みが広がっていきました。

【課題】

これまで行ってきた交流を続けつつ、さらに幅広く、深い交流を行っていくことが課題です。どのような取組を行うべきか、小学校・中学校の教員や子供たちがアイデアをさらに出し合う機会を設けていきます。

○ 学力の向上を図る …… 算数・数学科の取組

【成果】

児童・生徒のつまづきを解消するために小・中学校で研究授業を行い、①児童・生徒が興味・関心をもてる導入の工夫、②班活動を中心に自分たちで解き方を導き出す授業展開の工夫の2点について検討することができました。そして、授業展開の中で小学校では前の学年の、中学校では小学校の既習事項を活かす子供たちの姿も確認できました。また、「算数の授業は“いつかいち”」を意識し、具現化したことで授業計画のポイントが明確になりました。東京都の学力調査結果においても平均点が上昇し、基礎学力の向上に向けての道筋が見えてきました。

【課題】

今後の課題は、「児童・生徒の学力の向上を図る」という小・中学校共通の思いに対し、より深い意見交換をしていくことです。そのために、研究授業を小学校・中学校相互に行い、現在の授業交流を今後も継続していくことで、今まで以上に緊密な連携を築き、子供たちの学力の向上を目指します。

◎ 2年間の研究を終えて …小・中学校教職員の声

<よかったと思うこと>



- ・小学校の先生方の考え方や指導法・指導内容が確認できた。
- ・数多く顔を合わせることで、小・中学校の教員の距離が縮まった。

- ・中学校での数学の指導法が小学校とはちがうということが分かった。
- ・研究協議会で授業に関して色々な意見をいただき、視野が広がった。
- ・卒業生との交流を継続することができ、地域の学校として子供を見守る体制ができた。

<これからの課題>

- ・他の教科の連携・一貫についても研究を行い、さらなる学力向上につなげられればと思う。
- ・小中の特別支援学級間でも、合同で研修できるとよい。
- ・お互いの理解を一層深められるとよい。
(校務の内容、ちがいがあることなど。)



- ・授業の形式、掲示や板書など、小中の間でより統一できるとよい。
- ・これからも研究授業をしあっているとよい。
- ・研修内容の厳選をしていけるとよい。

〔研究に携わった教職員〕 ◎ 研究主任

【五日市中学校】

校長	曾我 有二	3-1	◎藤井 健一郎
副校長	沼田 博明	3-2	荒木田 拓
1-1	濱野 元輝	3-3	若尾 和成
1-2	木村 美里	3学年	長谷見 知紀
1-3	畠山 泰孝	3学年	飯室 亜矢子
1学年	上代 仁紀	3学年	志村 良子
1学年	宮下 友佳	5 組	友野 立子
2-1	高橋 佑輝	5 組	神野 哲也
2-2	内野 陽子	5 組	馬場 奎太
2-3	川村 美季	養 護	田中 かの江
2学年	松尾 克彦	都事務	有野 正樹
2学年	林 健一郎	市事務	内山 八重子
〔平成27年度〕			
副校長	高島 昇	3学年	永井 剛
1学年	小野里 宏	5 組	古川 薫
1学年	久慈 江理奈	5 組	柳井 香里

【五日市小学校】

校長	中島 靖二	5-1	◎川島 一真
副校長	寺内 雄一	5-2	川村 慎也
1-1	宮本 晶子	6-1	大森 雅之
1-2	山崎 和明	6-2	三木 香奈
1-3	三浦 あや	6-3	藤谷 謙悟
2-1	小林 和代	ひまわり	八木 紀子
2-2	若井 萌	ひまわり	高久 享子
3-1	大道 雅士	ひまわり	清水 千絵
3-2	末松 浩伸	ひまわり	市村 亜規
4-1	松浦 正志	音 楽	高木 るみ子
4-2	富樫 匠	図画工作	中町 也実
4-3	佐藤 薫	都事務	菊池 克昌
養 護	中村 美和子	市事務	横関 明子
算数少人数			
〔平成27年度〕			
副校長	川杉 稔	3-2	松山 奈穂子
1-1	松崎 桂子	3-3	廣田 裕一
1-2	吉本 邦江	4-2	大井 英里
2-3	増澤 佳矢子	ひまわり	若井 光男
3-1	野口 久美子	図画工作	畠山 麻衣